

小牧市
まち・ひと・しごと創生総合戦略
(素案)

小牧市

目次

1. 位置づけと計画期間

- (1) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ……………1
- (2) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間……………1

2. 基本目標及び諸計画との関係

- (1) 人口ビジョンを踏まえた基本目標……………2
- (2) まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則……………3
- (3) 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係……………3
- (4) 第6次小牧市総合計画新基本計画及び地域ブランド戦略との関係……………4
- (5) 進行管理……………4

3. 基本目標における基本的方向と具体的施策

- 基本目標1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出…5
- 基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備……………9
(こども夢・チャレンジNo.1都市の実現)
- 基本目標3 都市の活力と暮らしの安心の創造……………12
- 基本目標4 訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信……………16

1. 位置づけと計画期間

(1) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

- ・ 我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく必要があります。
- ・ こうした背景のもと、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することを目的に、平成 26（2014）年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。
- ・ 政府は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成 26（2014）年 12 月に、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。
- ・ 小牧市においては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、また、県の「愛知県人口ビジョン」や「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、「小牧市人口ビジョン」及び「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしました。
- ・ 「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「小牧市人口ビジョン」を踏まえ、第 6 次小牧市総合計画新基本計画や地域ブランド戦略との整合を図りながら、人口減少克服や地方創生に特化した今後 5 か年の基本目標や取り組む施策を示したものです。

(2) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間

- ・ 「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 か年の計画とします。

2. 基本目標及び諸計画との関係

(1) 人口ビジョンを踏まえた基本目標

- ・ 人口ビジョンにて考察したとおり、本市における課題は、転入出ともにほぼ横ばいであるものの、生産年齢人口の転出超過が深刻であり、少子高齢化の進行が予測されていることです。
- ・ 本市の強みでもある製造業などの豊富な産業基盤の一方で、特に出産・育児期にあたる20代後半から30代前半の女性就業率は全国や愛知県より低く、結婚・出産による女性の離職について依然として課題が残っていることがうかがえます。また、20代、30代の女性が結婚・出産のタイミングにおいて転出していく等、転出超過の傾向であり、出生数への影響が懸念されます。
- ・ 生活者が居住地に求める要件は「職場へのアクセス」、「ライフステージに適合した居住環境」、「よりよい育児環境（特に結婚・出産・育児期の居住者にとって）」であることが調査により明らかになりましたが、本市は、それらが充実しており、市民の満足度が高いにもかかわらず、その良さが近隣市町の住民には浸透していないことがわかりました。
- ・ そこで、これらの課題を解決し、人口減少克服を達成するために、人口ビジョンにおいて3つの目指すべき将来の方向を設定しました。
 - 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
 - 若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
 - 小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える
- ・ 目指すべき将来の方向を踏まえ、また、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や県の「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、次の4つの基本目標を定めました。

基本目標 1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出

基本目標 2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備

(こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現)

基本目標 3 都市の活力と暮らしの安心の創造

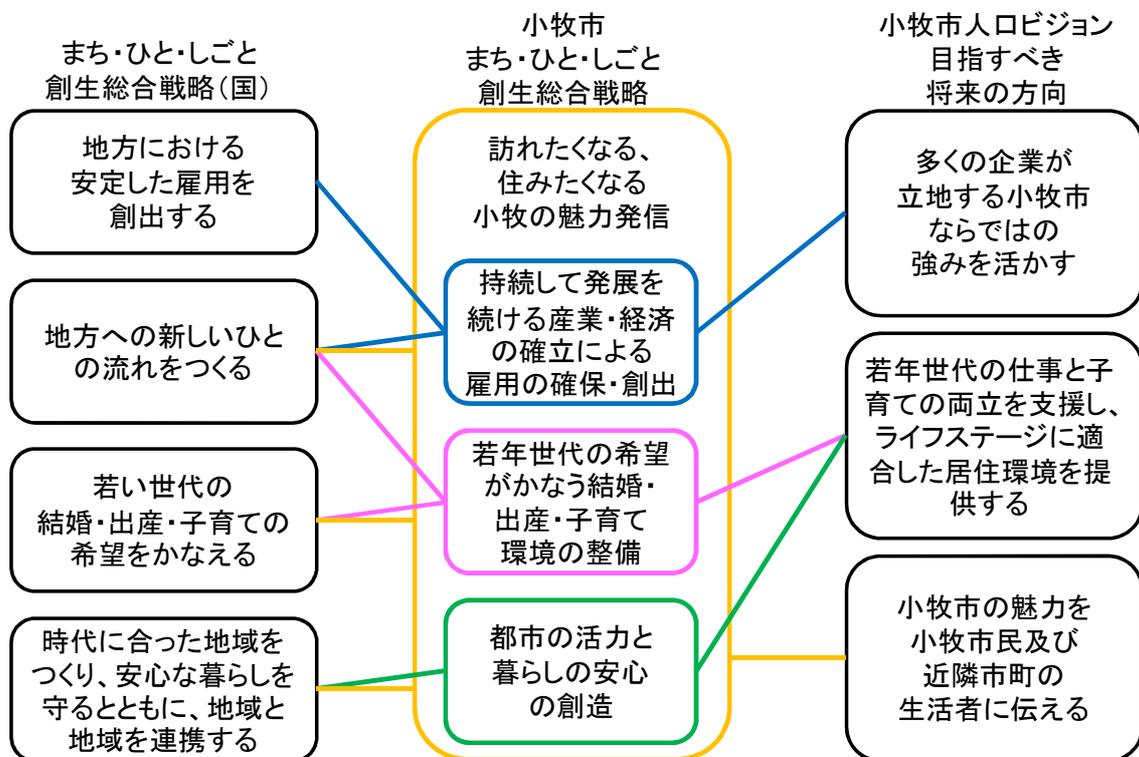
基本目標 4 訪れたい、住みたい小牧の魅力発信

(2) まち・ひと・しごとと創生に向けた政策5原則

- ・ 国の政策5原則（自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視）を踏まえ、施策を効果的に推進していきます。
 - 自立性：一過性の施策ではなく、国の支援がなくとも事業が継続し、本市の自立につながる施策を展開します。
 - 将来性：次代の地域を担うこどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する取り組みをはじめ、将来に向かって前向きな施策を展開します。
 - 地域性：人口ビジョンで明らかになった、本市の地域特性を踏まえた施策を展開します。
 - 直接性：限られた財源の中で、人口減少克服や地方創生の実現に向け、最大限の効果を上げることが出来る施策を展開します。
 - 結果重視：各施策に重要業績評価指標（KPI）を設定し、PDCAサイクルのもと、検証・改善できる仕組みを導入します。

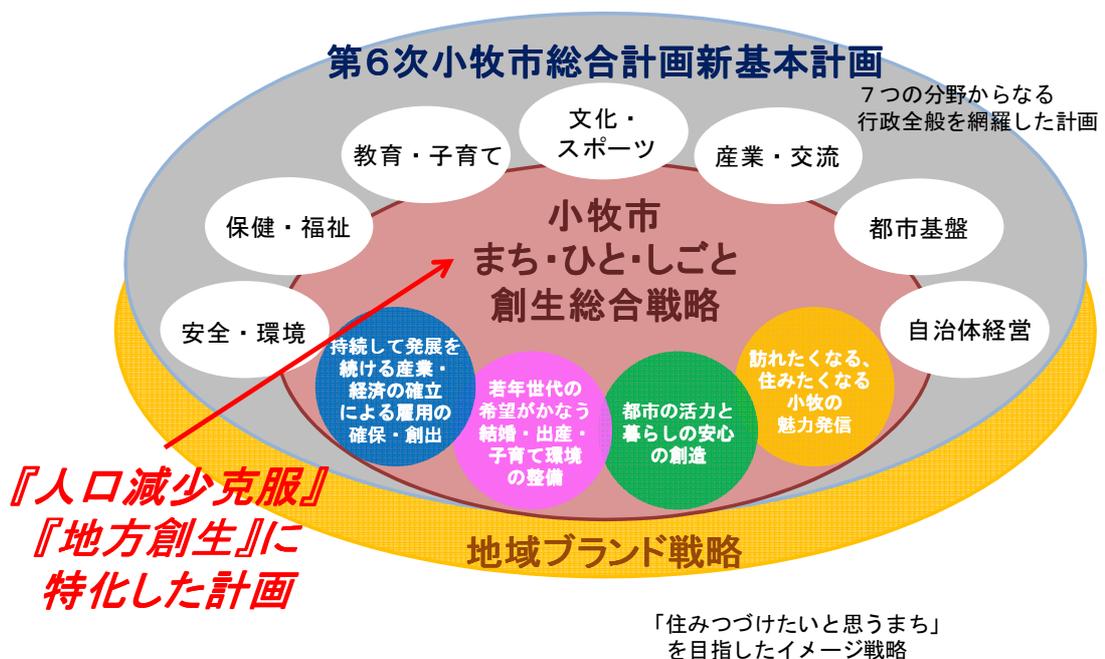
(3) 国のまち・ひと・しごとと創生総合戦略との関係

- ・ 国の「まち・ひと・しごとと創生総合戦略」を勘案するとともに、人口ビジョンにおいて明らかになった本市の地域特性を踏まえた施策を展開し、人口減少の克服や地方創生に取り組みます。



(4) 第6次小牧市総合計画新基本計画及び地域ブランド戦略との関係

- ・ 「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、7つの分野からなる行政全般を網羅した「第6次小牧市総合計画新基本計画」のうち、人口減少克服や地方創生につながる施策をとりまとめた計画です。
- ・ また、『住みつけたいと思うまち』を目指したイメージ戦略である「地域ブランド戦略」の要素も取り入れます。



(5) 進行管理

「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行管理については、Plan（計画）、Do（実行）、Check（分析・評価）、Act（改善・改革）のマネジメントサイクル（PDCAサイクル）を確立する必要があります。そのため、有識者等からなる推進組織を設置し、各基本目標及び施策において設定した数値目標や重要業績評価指標（KPI）の達成状況についての検証を行うとともに、必要に応じて施策の見直しを行うなど、総合戦略を推進していきます。

3. 基本目標における基本的方向と具体的施策

基本目標 1

持続して発展を続ける産業・経済の確立による 雇用の確保・創出

本市は、高速道路や空港等の広域的な交通体系の利便性に優れ、また、名古屋を中心に立地している様々な関連企業にも近く、強固な地盤も有するなど、新規産業の誘致に非常に有利な立地条件を備えています。

しかし、事業所あたり又は従業者あたりの製造品出荷額等は愛知県及び近隣市町と比べ決して高くなく、中小規模の事業所が多い本市産業を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況にあります。

そのため、経営安定化に向けた支援や新たな事業展開を支援するとともに、事業所を誘致するなど産業集積の強化を図ることにより、持続して発展を続ける産業・経済を確立することで、雇用を確保・創出していきます。

数値目標	基準値	目標値(平成 31 年度)
製造業及び卸売業、小売業の従業者数	53,093 人(H26)	

基本的方向

- 様々な支援ニーズに対応した支援策を展開するなど、市内企業が今後とも本市で操業継続できる環境づくりを進めるとともに、本市で働く就業者を増やすための取組みを支援していくことで、優れた人材を確保しやすくなるような環境づくりを進めます。
- 航空宇宙産業を含む次世代成長産業に関連する企業誘致や市内企業の参入を支援する体制を整備するとともに、これに必要となる人材の確保と育成を支援します。また、企業が進出しやすい条件を整え、安価で良好な操業環境を確保できる土地を開発・整備していくことで、新規企業の誘致及びその受け皿の確保を進めます。
- 多様な中小事業所が有する高い技術力や人材等を活かし、新しい分野に取り組む企業・事業所の育成を進めるとともに、新たな地域資源等の付加価値を高める産業展開を図る事業者を支援します。また、起業を目指す人たちに必要な情報やノウハウ、資金等を提供するなど起業に対する支援を行うとともに、市内企業での人材育成を支援することにより起業意欲を掘り起こすことで、これからの小牧の産業を担い、支えていくことができる人づくりを進めます。

基本目標達成に向けた施策体系

1. 市内企業の操業支援	(1) 市内企業の操業環境の改善 (2) 企業の人材確保と働き手の就労支援
2. 企業誘致と産業集積の推進	(1) 次世代成長産業（航空宇宙産業）の集積強化 (2) 企業誘致・工業用地の確保
3. 起業・新産業展開への支援	(1) 新たな取組みへのサポート (2) 未来の小牧を支える人づくり

施策 1. 市内企業の操業支援

(1) 市内企業の操業環境の改善

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（平成 31 年度）
製造品出荷額等	1 兆 2, 359 億円 (H25)	

主な取組み	内容
① 新增設・設備投資支援	工場の新設若しくは既存工場への入居に対する支援、工場設備の更新や増設、省エネルギー設備の導入に対する支援を行います。
② 経営の効率化・安定化支援	資金調達に係る各種制度等の充実を図るとともに、経営や技術に関する市内企業の課題解決を図るための支援を行います。

(2) 企業の人材確保と働き手の就労支援

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（平成 31 年度）
就職フェアの参加人数（累計）	198 人 (H27)	

主な取組み	内容
① 人材の確保・人材育成支援	就職を希望する人に対する窓口の多様化と機能の充実を図るとともに、人材育成のための各種研修事業に対する費用の一部支援を行います。
② 新規雇用の創出（就労）支援	市内企業の人材採用を促進するため、新規に雇用を行う企業に対して各種支援策を実施します。
③ 就業環境の改善・充実支援	保育のための施設を設置する事業所に対して費用の一部等を支援するなど、就労が困難となっている労働者の環境改善を進めます。

施策2. 企業誘致と産業集積の推進

(1) 次世代成長産業（航空宇宙産業）の集積強化

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（平成 31 年度）
次世代成長産業分野に属する新規企業の数（累計）	2 件（H27）	

主な取組み	内容
①研究開発・技術開発支援	新技術等の研究開発等に対する支援を行うとともに、産学官の連携や異業種、異分野が連携する新技術開発等の支援を行います。
②次世代成長産業参入支援	航空機部品製造認証等の取得支援や展示会等への出展支援、セミナーの開催など航空宇宙産業を含む次世代成長産業への参入を試みる企業の支援を行います。

(2) 企業誘致・工業用地の確保

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（平成 31 年度）
新規進出企業の数（累計）	23 件（H27）	

主な取組み	内容
①工業用地の開発・整備	工業用地造成事業、地区計画制度等の事業・制度を用いて、工業用地の整備に向け調整を進め、新たな企業の進出を誘導します。
②民間活力による工業用地開発支援	開発手続きの簡略化や、関連する制度等の柔軟な適用を進めるとともに、工業用地開発に関連するインフラ整備への支援を行います。
③遊休地・低未利用地の活用促進	有効活用可能な遊休地・低未利用地情報を提供する仕組みを整え、工業用地として活用できるよう道路等のインフラ整備を進めます。

施策3. 起業・新産業展開への支援

(1) 新たな取組みへのサポート

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
中小企業次世代成長産業設備等導入補助金の活用件数(累計)	4件(H27)	

主な取組み	内容
①地域資源等を活用した産業の育成支援	地域資源の活用や、地域資源等の付加価値を高める産業展開を図る事業者に対する支援を行います。
②販路開拓支援	販路開拓に関して、見本市等のPR活動への出展に関する支援を行います。

(2) 未来の小牧を支える人づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
創業支援セミナーの受講者のうち、実際に起業(創業)した人数(累計)	10人(H26)	

主な取組み	内容
①起業・創業支援	創業に関するセミナー等の開催や、会社設立に関する諸費用についての助成、一定の創業資金の融資に関する利子補給を行います。
②人材育成支援	人材育成を実施する企業等に対して、人材育成研修費等の補助を行うとともに、新たな人材育成の支援制度の導入を検討します。

基本目標 2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備

(こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現)

本市の自然動態（出生数・死亡数）をみると、一貫して出生数が死亡数を上回っているが、出生数が減少傾向にある一方、死亡数が増加傾向であるため、その増加幅は縮小傾向にあり、少子化が進行しています。

本市における未婚率は、全国や愛知県と比べて低い水準で推移してきたものの、近年は愛知県に近い水準となっており、晩婚化が進行しています。

また、子育て世代へのアンケート調査の結果をみると、約半数の回答者が「現在のこどもの数は理想のこどもの数より少ない」と回答しており、その理由として、「経済的な負担が大きい」や「仕事と子育ての両立が困難」が多くを占めています。

そのため、若年世代の希望がかなう結婚・出産・育児環境をつくるとともに、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、あたたかく支え合い、暮らしやすい、魅力あるまちづくりを進めます。

数値目標	基準値	目標値(平成 31 年度)
合計特殊出生率	1.54(H25)	
年少人口(0～14 歳)の数	22,091 人(H27)	

基本的方向

- 結婚について、若年世代の希望がかなえられる取組みを実施します。また、だれもが安心して子育てができる体制を整えるとともに、子育てと仕事の両立を支える子育て支援サービスの拡充を図ります。
- 夢やチャレンジの象徴である次代の地域を担うこどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開するとともに、安全で楽しく学べる教育環境の整備を一層推進することにより、こどもを中心に世代を越えて、市民がつながり、支え合う、住みよいまちづくりを進めます。

基本目標達成に向けた施策体系

1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援	(1) 結婚・出産・子育てへの支援 (2) 子育てと仕事の両立支援
2. こどもの夢・チャレンジの応援	(1) コマキッズドリームプロジェクトの推進 (2) 夢をもって生きる力を育む教育の推進

施策 1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援

(1) 結婚・出産・子育てへの支援

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
出生数	1,400 人(H26)	
安心して子育てができるまちと 思う子育て世代(20~40 歳代)の 割合	59.0%(H26)	

主な取組み	内容
①結婚につながる支援	若年世代の出会いの場を創出する事業者の取組みを支援します。
②出産・育児を支援する相談体制の充実	妊娠期から出産・育児まで充実した健診や訪問などを実施するとともに、子育て世代が気軽に相談できる体制を整え、切れ目のない支援に努めます。
③子育て家庭が交流し、支え合える場の充実	親子の孤立化を防ぎ、地域との関わり合いの中で不安感を緩和しながら子育てができるよう、親子が気軽に集い、交流できる場・機会を提供します。

(2) 子育てと仕事の両立支援

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
待機児童数	31 人(H27)	

主な取組み	内容
①待機児童の解消	希望するすべての人がこどもを預けて働くことができる体制を整え、待機児童ゼロを目指します。
②放課後児童クラブの充実	児童が安全に放課後を過ごせるよう質の向上や機能の充実を図ります。
③多様な保育ニーズに応える体制の充実	一時保育や延長保育など、多様な保育サービスを実施するとともに、特色ある保育サービスが提供できるよう保育園の民営化を進めます。

施策2. こどもの夢・チャレンジの応援

(1) コマキッズドリームプロジェクトの推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
夢育み事業に参加したこどもの数	6,364 人(H27)	
これからも小牧で育っていきたいと思うこどもの割合	82.2%(H26)	

主な取組み	内容
①こどもが夢に向かって挑戦する機会の創出	様々な競技のトップアスリートと直接ふれあう機会や、市内の特色ある企業・産業を知る機会など、こども自身が夢に向かって挑戦できる環境を創出します。
②こどもの夢を応援する体制の整備	市民や企業、市が一体となって、こどもの夢をまち全体で応援する仕組みをつくりまします。

(2) 夢をもって生きる力を育む教育の推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
学校が楽しいと思うこどもの割合	90.8%(H26)	

主な取組み	内容
①安全に安心して学べる教育環境の整備	小中学校の普通教室へのエアコン設置や防犯カメラの設置、非構造部材の耐震改修工事など、こどもが安全に安心して学べる教育環境を整備します。
②地域の特色を活かした教育の推進	地域人材の活用とコミュニティスクールの導入や地域性を活かした学習活動と児童生徒による地域貢献など、地域の特色を活かした教育を推進します。
③グローバルな視野の涵養	英語教育の充実や理数教育における企業等との連携、夢の教室の実施などを通してグローバルな視野の涵養に努めます。

基本目標 3

都市の活力と暮らしの安心の創造

本市における今後のまちづくりは、人口の減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心かつ健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすること、災害から人命を守ることを推進していく必要があります。

そのため、一定の地域における人口密度を維持するとともに、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいの身近に存在する多極ネットワーク型のコンパクトシティを目指します。

数値目標	基準値	目標値(平成31年度)
元気で生きがいを持って生活できるまちと思う市民の割合	70.8%(H26)	
安全で安心して暮らせるまちと思う市民の割合	81.3%(H26)	

基本的方向

- 名鉄小牧線沿線を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保するとともに、名鉄小牧駅周辺におけるまちの魅力を高め、若年世代が住みやすいまちづくりを進めます。また、生涯にわたって元気でいきいきと暮らすことができるよう、市民が積極的に健康づくりに取り組み、社会全体で支援する環境づくりを行います。
- 高齢者が住み慣れた地域の中で安心して介護サービスや医療サービスを切れ目なく受けることができるような体制を充実するとともに、地域住民みんなが支えあって、地域で安心して暮らすことができる環境・仕組みを整えます。また、だれもが安心して暮らせる災害に強く、犯罪の少ないまちづくりを進めます。さらに、市民の暮らしを支える持続可能な公共交通ネットワークを構築し、だれもが利用しやすい環境を整えます。

基本目標達成に向けた施策体系

1. “まち”も“ひと”も元気いきいき社会の創出	(1)若年世代が集まる魅力あるまちの創出 (2)生涯現役、健康いきいき社会の実現
2. だれもが安心して暮らせる地域づくり	(1)福祉・医療・支え合いの仕組みづくり (2)防災・防犯安心社会の創出 (3)暮らしを支える公共交通の構築

施策 1. “まち” も “ひと” も元気ないきいき社会の創出

(1) 若年世代が集まる魅力あるまちの創出

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値 (平成 31 年度)
名鉄小牧線沿線居住率	56.9% (H26)	

主な取組み	内容
① 駅周辺の都市機能の強化	名鉄小牧駅周辺をはじめ、鉄道各駅周辺において、市民が便利で快適に利用できる都市機能を整備します。
② 若年世代が住みやすい住宅地の創出	名鉄小牧線沿線の市街地において、良好な宅地を供給するとともに、生活環境を改善し、若年世代が住みやすいまちづくりを進めます。

(2) 生涯現役、健康いきいき社会の実現

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値 (平成 31 年度)
健康マイレージ事業における優待カード発行枚数	0 枚 (H26)	
日常生活の中で 5,000 歩以上歩く市民の割合	77.7% (H25)	
各種がん検診の受診率	胃がん：20.8% 大腸がん：31.0% 子宮がん：4.4% 乳がん：6.9% (H26)	

主な取組み	内容
① 心と体の健康づくりへの支援	独自の健康ポイント制度を創設するなど、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことができる環境を整えます。
② 病気の予防・早期発見・重症化予防	独自の人間ドック事業など、健診の受診率向上に向けた魅力ある取組みを実施します。

施策2. だれもが安心して暮らせる地域づくり

(1) 福祉・医療・支え合いの仕組みづくり

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成31年度)
在宅で医療を受けている市民の数	286人(H25)	

主な取組み	内容
①在宅医療の推進	介護と連携した医療の提供や、他職種が切れ目のないサービスを提供できる体制の構築により、在宅医療を推進します。
②地域支え合い活動の推進	地域の住民同士がお互いに支え合う地域の活動を推進するとともに、ひとり暮らし高齢者などの支援や介護予防を推進する環境を整えます。

(2) 防災・防犯安心社会の創出

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成31年度)
災害への備えをしている市民の割合	43.1%(H26)	
刑法犯認知件数	2,025件(H26)	

主な取組み	内容
①災害に対する備えの強化	防災力向上につながる活動に対する支援を行うとともに、大規模災害に供えた安全対策を実施するなど、災害に強いまちづくりを進めます。
②犯罪が起こりにくい環境の整備	区や商業施設などによる防犯カメラ等の防犯設備の設置を支援するなど、自主的な防犯活動への支援を行います。

(3) 暮らしを支える公共交通の構築

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
公共交通機関の 1 日平均利用者数	38,654 人(H26)	

主な取組み	内容
①持続可能な公共交通ネットワークの形成	こまき巡回バスの利便性を向上させるとともに、名鉄小牧線各駅において交通結節機能を強化することにより、市民にとって利用しやすい公共交通を実現します。
②利用しやすい公共交通環境の整備	より多くの方が公共交通を利用するために、バリアフリー対策など、だれもが利用しやすい環境を整えます。

基本目標 4

訪れたいくなる、住みたいくなる小牧の魅力発信

本市が住民から選ばれるまちとなるには、本市の取組みや魅力を積極的に発信していくことが大切です。また、あわせて地域の強みとなる資産を活用して、そのまちのよいイメージをつくり出していく取組みも大切です。

アンケート調査の結果を見ると、「商業施設の充実」、「育児環境」、「緑地などの自然の多さ」などの項目は市民の満足度が高い一方、近隣市町の生活者は、本市に対してそのようなイメージを持っていないということがわかりました。

そのため、地域ブランド戦略をより一層推進していくとともに、市内外の活発な交流を推進することで、より多くの人々が「訪れたいくなる」、「住みたいくなる」、「住みつけたい」小牧を目指します。

数値目標	基準値	目標値(平成31年度)
これからも小牧市に住み続けたいと思う市民の割合	81.4%(H26)	
社会増減数(転入数－転出数)	-132人(H26)	

基本的方向

- 本市に対する愛着や誇りを醸成するため、こどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開するとともに、“夢・チャレンジ 始まるの場所”である小牧山の歴史的価値の発信と魅力の向上に取り組みます。
- 住民、行政、事業者、観光協会など様々な主体が地域資源を見つめなおし、連携してその資源を磨き、育てることでその付加価値を高め、魅力の向上を図るとともにその魅力を伝えることで交流を促します。
- 若年世代が本市に定住するきっかけとなるよう、本市の取組みや魅力、本市における生活イメージを企業と協力して発信するとともに、定住につながる支援を実施します。

基本目標達成に向けた施策体系

1. 地域ブランド戦略の推進	(1) コミュニケーションプログラムの推進 (2) コマキッズドリームプロジェクトの推進【再掲】 (3) 小牧山シンボルスポットプロジェクトの推進
2. 市内外の活発な交流の推進	(1) 活発な交流の推進
3. 若年世代の定住促進	(1) 定住につながるきっかけづくり

施策 1. 地域ブランド戦略の推進

(1) コミュニケーションプログラムの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値(平成 31 年度)
小牧市のブランドロゴマーク及びキャッチフレーズを知っている市民の割合	38.0%(H26)	

主な取組み	内容
①目指すまちのイメージの発信	公共施設のピクトグラムにブランドロゴのキャラクターを使用したり、ブランド絵本やポスター、ブランドムービーなどを制作します。

(2) コマキッズドリームプロジェクトの推進【再掲】

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値(平成 31 年度)
夢育み事業に参加したこどもの数	6,364 人(H27)	
これからも小牧で育っていききたいと思うこどもの割合	82.2%(H26)	

主な取組み	内容
①こどもが夢に向かって挑戦する機会の創出	様々な競技のトップアスリートと直接ふれあう機会や、市内の特色ある企業・産業を知る機会など、こども自身が夢に向かって挑戦できる環境を創出します。
②こどもの夢を応援する体制の整備	市民や企業、市が一体となって、こどもの夢をまち全体で応援する仕組みをつくりまします。

(3) 小牧山シンボルスポットプロジェクトの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値(平成 31 年度)
小牧市のシンボルが小牧山と思う市民の割合	79.6%(H26)	

主な取組み	内容
①小牧山の歴史的価値の発信強化	歴史的資産である小牧山を広く周知するために、体験や学習、研究や情報発信の拠点を整備します。
②小牧山の魅力向上	小牧山を市民の憩いの場とするために、小牧山の歴史やロケーションを活用したイベントを開催するなど小牧山の魅力を高めます。

施策 2. 市内外の活発な交流の推進

(1) 活発な交流の推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
主要なイベント及び地域資源への来訪者の数 (交流人口)	2, 213, 229 人 (H26)	

主な取組み	内容
①魅力ある観光の推進	多彩な地域資源を磨き、育てることで付加価値を高め、その魅力の向上を図るとともに、その魅力を伝えることで交流を促すという一連の観光への取組みにより、市民の本市への愛着や誇りを醸成します。
②魅力あるイベント・まつりの開催	魅力あるイベントやまつりを開催することにより、市内外の活発な交流を促します。

施策 3. 若年世代の定住促進

(1) 定住につながるきっかけづくり

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値(平成 31 年度)
20～40 歳代の社会増減数 (転入数－転出数)	-99 人 (H26)	

主な取組み	内容
①定住につながるプロモーションの強化	本市の取組みや魅力、生活イメージなど本市の住環境情報を不動産業界や金融機関等と協力して積極的に発信します。
②定住につながる支援	空き家の活用や子育て世代の住宅取得に対する支援などを実施します。